令和元年度 第2回碧南市民病院運営審議会 議事録

1 日時

令和元年7月8日（月）午後1時30分から午後3時まで

2 場所

市民病院2階 講義室

3 出席者（委員）15名（順不同）

加藤丈博委員（会長）、生田譲委員、水野博史委員（副会長）、奥村晋平委員、鈴木並生委員、名倉孝昭委員、山中寛紀委員、比嘉穰治委員、杉浦邦俊委員、禰宜田知司委員、神谷葉子委員、神谷悟志委員、鈴木玲子委員、對馬幸司委員、森田英治委員

4 欠席者（委員）3名

長田和久委員、三島孝二委員、城頭亜紀子委員

5 出席者（病院側）15名（事務局担当含まず）

禰宜田市長、亀岡病院長、杉浦(誠)副院長、杉浦(厚)副院長、金澤副院長、古久根看護部長、鈴木医事経営課長、伊藤管理課長、中崎訪問看護ステーション管理者、榊原管理課課長補佐、高原施設用度担当係長、野村医事経営課企画推進係長、河合医事経営課医事係長、鈴木医事経営課医事担当係長、深津管理課総務係長、

6 傍聴者

1名

7 内容

(1) 会議の成立について

伊藤管理課長から本日の出席者は15名で、委員の過半数を超えたため、本日の会議は成立した旨の宣言があった。

(2) 傍聴者について

会議の公開に伴う傍聴者について、伊藤管理課長から、本日1名の傍聴者がみえる旨報告があった。

(3) 禰宜田市長あいさつ

皆さんこんにちは、碧南市民病院の管理者であります市長の禰宜田です。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は平成30年度決算について、皆様のご意見をいただくことが主な議題であります。

皆さまもご承知のところではありますが、前年に引き続きまして大変数字が悪い状態です。約10億数千万の赤字であり、碧南市から約12億円の繰入れもあり、合計で約20億円を超える額を結果的に碧南市が負担することになります。この状況がどこまで続くかということもありますが、そのなかで、病院として、今年度から3年をかけまして、病棟の改修工事をし、病床数を減らすことを計画しています。また、医師のインセンティブ手当として、患者の紹介や入院に対しての実績に応じた手当を実施しています。抜本的な解決になっていないが、今年度は昨年度よりは少しは良いとのことでもあります。あとは、病院周辺の状況がどのように変わってくるかということ、根本的に医師が不足していること、西尾市民病院との関係もあります。ただ、市民としては市内に総合病院があることが重要な意味を持っています。安心感もあるし、できればこのまま病院を継続したい、これが碧南市民の総意ではありますが、今後どのような話になるかは分かりませんが、今のような経営状態が続くと放置できないこともあるので、少し考え方を考える必要も出てくるかもしれません。また、少し柔軟に対応する必要も出てくると思います。委員の皆様の意見を充分にお聞きしつつ、市民の皆様の安心安全を損なわないように、碧南市としては頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご支援ご協力を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(4) 会長あいさつ

みなさんこんにちは。碧南市医師会の加藤です。本日はお昼どきのお忙しい時間帯にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。そしてまた、碧南市民病院の先生方には日頃大変な患者さんをこころよく引き受けてくださいまして本当に助かっております。どうもありがとうございます。特に碧南市で救急搬送される患者の大半を市民病院が引き受けていただきまして誠に助かっております。なかには、かかりつけ医として日頃診ております患者が救急外来に受診することもあります。丁寧に連携をとって良く診ていただきまして、ありがとうございます。それでは、本日も幾つかの議題がありますので、ご協議の程お願いいたします。

(5) 亀岡病院長あいさつ

みなさん、こんにちは。病院長の亀岡であります。本日は大変お忙しい中、梅雨の蒸し暑い気候のなかをお集まり頂きまして、ありがとうございます。また、日頃より市民病院の運営にご理解をいただきましてありがとうございます。本日は定例の審議

会で決算の報告が主な議題であります。先程から話がありますとおり、非常に厳しい経営状況が続いております。それに対して色々な手をうって考えているところです。本日は忌憚ないご意見をいただき、よろしくご審議のほどお願いいたします。

(6) 新任委員の紹介

管理課長から「碧南市民病院運営審議会名簿」に基づき2名の新任委員を紹介（碧南市社会福祉協議会会長 杉浦邦俊委員、碧南市保育所父母の会連絡協議会会長 城頭亜紀子委員）

(7) 議題

ア 平成30年度碧南市病院事業について

鈴木医事経営課長から「平成30年度碧南市病院事業報告書」（参考資料1）、「平成30年度患者状況総括表」（参考資料2）、「平成30年度病院事業決算対比」（参考資料3）、「中期経営計画の数値目標の達成率」（参考資料4）に基づき説明を行った。なお、このことについて、亀岡病院長から追加のご報告があります。

（亀岡病院長）

ただいま、決算数値の報告をさせていただきましたが、1年を通しての数値となります。なかなか改善の兆しがみえず、前年度よりも悪くなっている数値ですが、もう少し細かいところで月次の推移をみていただきたいと思います。医師数は昨年度よりも5名減っている状況です。減っている診療科では、ご迷惑をかけていますように消化器内科が4名から1名に、他の一般内科や眼科も減少しています。続いて、入院稼働額であります。4月以降で夏頃まで昨年度よりも稼働額が低い状況が続いていましたが、夏の時期に増加し、秋頃に少し減少した傾向があります。ただ、1月、2月、3月については、インフルエンザの蔓延もあり、患者数及び入院稼働額が昨年、一昨年を越えるほどの増加をしております。同様に診療単価を見てみます。碧南市民病院の診療単価で少ない数値では4万6千円となります。全国のDPC病院で碧南市民病院と同規模病院の平均が6万円位でありますので、当院が急性期ではない患者もいるということになります。ただ、医師が少ないなかで入院単価を上げるようにしているため、年度後半では若干の改善が見られます。外来に関しては、診療単価は昨年とあまり差がない状況でした。病院の収益は、入院の方が収益も診療単価も大きいので、慢性的な通院の方は医師会の先生にお願いする方向性で、当院も年度中頃から医師会の先生に紹介して、外来患者数を減らしていく方向をとっています。救急車搬送患者、

救急外来患者数であります。4月以降で昨年度よりも減少傾向でありましたが、休日でも救急車をなるべく積極的に受け入れる方向にしております。総体的に前年度とほぼ同じ状況であります。経営状況が悪いなかで、昨年5月に千葉大学の井上先生を講師で招いて、できることをやっていくと方向性をうちだし、救急管理加算の診療報酬を積極的にとっていくことにしました。また、地域包括ケア病棟の利用率が低かったため、ベッドコントロールを考えて、一般病棟で症状が安定してきた患者を在宅への準備期間として、地域包括ケア病棟に転棟して利用するようにしました。結果、地域包括ケア病棟の病棟利用率が増えました。昨年度に診療報酬の改定があり、連携医療の部分での改定が大きかった。入院前からのコントロール、退院後のケアも重要視され、その体制作りをして、診療報酬の算定率向上を目指している。また、病院の収益や医療制度について、職員の理解や認識が低いため、勉強会を開催して、日常の医療行為の診療報酬への意識付けを行い、算定漏れの防止を目指している。職員の意識が大分上向きとなってきている。入院支援センターのような収入を増やすための組織変更をしたり、頑張った分だけ手当が増えるインセンティブ手当を導入したり、色々と考えながらやっております。このように経営状況が悪いなりに努力をしています。今年度の院内目標は目先を変えて、患者をふやすこととし、地域包括ケアシステムのなかで地域との交流を深める、組織がマンネリ化してくると新しいことが始まらないため、新しいこと、違ったことを始めることを目標として、各部署で考えておこなっております。今年度の数値であります。入院診療稼動額は昨年度と比べるとふえています。入院診療費収入が5月で約5千万円の増となっている。入院診療単価も一般病棟だけでは約5万円と他の同規模の病院の入院診療単価に近づいてきています。病床利用率も4月、5月と70%を超えて、病院全体の意識を変えて、医師数は増えていませんが、少しは改善の兆しがみえると思われれます。赤字の額が多いので、少しずつでも改善できるように努めますのでご理解いただけますようお願いいたします。

(加藤丈博会長)

説明が終わりました。ご質問がございましたらお願いします。

(委員①)

病院長からお話があったとおり、一人一人が経営者意識をもってもらうことは大変重要なことではないかと思っておりますので、ここは1つよろしくお願いします。確認であります。収益的収支のなかで約12億円を市の負担金として繰り入れても、10億

円ほどの赤字であるということで間違いなかったですね。

(医事経営課長)

はい。そのとおりです。

(委員①)

資本的収支のなかで、貸借対照表の資本的収支の市の負担金である出資金が133億円、剰余金が△82億円あるということは、資本的収支で133億円を市が負担して、82億円の累積赤字があるということでしょうか。

(医事経営課長)

はい。そのとおりです。

(委員①)

また、確認ではありますが、貸借対照表のなかの減価償却費の部分ではありますが、建物の部分に同じ数値が載っていますが、減価償却をすれば、建物資産は減ることによってよかったですか。建物の部分がプラスマイナスゼロとなっているが、建物以外の項目でプラスになっている項目やマイナスになっている項目もあるので分かりづらい。表記を統一していただいた方がいいと思います。あと、借り入れの残高が、去年は31億円あったが、今年28億円に減ったということか。その2点を確認していただきたい。冒頭の市長からの挨拶のなかで、課題というか、これからどうしていくかということの挨拶もありましたが、そのことは、皆で考えていかないといけないと考えております。

(野村企画推進係長)

建物については、増築等はしておりませんので昨年と同等の金額になっております。建物付属設備については、工事等を行っておりますので昨年と比較して増加しております。

(委員①)

建物の減価償却をしても、建物の資産は減っていかないのか。

(野村企画推進係長)

貸借対照表の同減価償却累計額に経年とともに償却した額を記載してあります。建物の減価償却は昨年度と比較して2億円の減少となります。

(禰宜田市長)

貸借対照表の建物上段が投資した金額が記載されていて、同減価償却累計額が減価

償却した額が記載されているということか。

(野村企画推進係長)

そのとおりです。

(委員①)

建物の資産額としては、約35億円が残っているということか。

(野村企画推進係長)

そのとおりです。

(委員①)

この建物の89億円が表示されなくなることはあるのか。建物自体がなくなればゼロとなるのか。

(野村企画推進係長)

償却額が全部なくなればゼロと表記されます。上段の数値と相殺されます。

(委員①)

建物の償却が終わらないと建物の当初費用89億円が表示され続けるということか。実際に病院を建てた費用はもっと沢山の費用があるように感じるがいかがなのか。

(野村企画推進係長)

まだ、建物の資産価値が35億円ほど残っているため、全部が償却されない限り、89億円は表記されます。

(禰亘田市長)

市役所を全体が57億円で建てているので、病院の89億円もそのくらいの費用がいると思われる。

(加藤丈博会長)

他にご質問やご意見のある委員の方はおられますか。それでは、次の議題にうつります。

イ 平成30年度碧南市民病院中期経営計画アクションプランの実施状況について

鈴木医事経営課長から「平成30年度アクションプランの実績報告」（参考資料4）に基づき説明を行った。

(加藤丈博会長)

説明が終わりました。ご質問がございましたらお願いします。ご意見等がないようですので、次の議題にうつります。

ウ 碧南市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について

鈴木医事経営課長から「碧南市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について」（参考資料5）に基づき説明を行った。

(加藤丈博会長)

説明が終わりました。ご質問がございましたらお願いします。

(委員②)

すべての料金はいつから変わっていないのですか。開院当初から一緒なのですか。例えば、医師面談料はいつから変更していないのか。

(医事経営課長)

基本的には変更をしておりません。消費税の変更に関しては変更しております。

(委員②)

個人的な意見であります。もう少し金額を上げてよいのではないのでしょうか。

(委員③)

金額を上げた方がよいのではないかという意見であります。検討されるのでしょうか。

(医事経営課長)

当初は近隣の病院と合わせて設定しましたが、必要に応じて変更を検討していきます。

(委員③)

ぜひ検討をしてみてください。

(委員①)

消費税が内税表記であるため、消費税の変更のたびに条例の変更が必要となる。外税表記にしておけば、条例の変更は必要ないのではないか。以前に議題であがった、初診時特定療養費の金額ももっとあげてもよいように思える。そうすることで、紹介患者がふえるし、患者さんも紹介する方向を選択するようになると思う。そのようなことから、もっと金額をあげても良いと思います。

(医事経営課長)

初診時特定療養費は近隣の安城更生病院や刈谷豊田総合病院などは5千円の設定であるので、今後で検討させていただきます。

(加藤丈博会長)

他にご質問やご意見のある委員の方はおられますか。それでは、次の議題にうつります。

エ 平成30年度訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所事業について

中崎訪問看護ステーション管理者から「平成30年度訪問看護ステーション事業実績」及び「平成30年度碧南市居宅介護支援事業所事業実績」（別紙資料）に基づき説明を行った。

(加藤丈博会長)

他にご意見等はございますか。それでは、その他の事項に移ります。その他の事項で何か説明がございましたらお願いします。

(医事経営課長)

特にございません。

(加藤丈博会長)

その他の事項も無いようですので、全体を通してご意見などはございますか。

(委員①)

先程、市長より話がありました決算書を見ても非常に大変というか、普通の企業ではありえない赤字や市の負担金があります。市民サービスは当然税金からするわけですので、否定するわけではありませんが、少しでも良くするために、新聞に掲載されていた記事を紹介しますので検討していただきたい。読ませていただきます。公益社団法人地域医療振興協会は4月から自治体病院のあま市民病院の管理運営を開始したということがあります。指定管理期間は2039年3月までということがあります。地域医療振興協会とは、地域医療のスペシャリストとして、地域に適した医療の提供に取り組んでいる。全国の僻地地域の医療介護福祉をサポートするため、全国約80施設の病院介護施設を管理運営しているということだそうです。市民病院の経営状態がこのまま続くのであれば、市の財政力があるとはいえ将来に対する危惧もあるわけです。以前に雑誌記事などで、公立病院の生き残りには、3つくらいしか方法がないと記事に記載がありました。1つは、前に説明したように指定管理などに任せる、1つは、高浜市立病院のように近隣の大きな病院に面倒をみてもらう。あと1つは病院の安楽死とされています。それが非常に衝撃であったので記憶しているのですが、碧南市がどのように市民病院を今後していくのか、市民の病院としてあるといい訳なのですが、不安定な経営をいつまで続けるのかを含め

て、1つの案としてこのような指定管理の導入も検討をしていただければと思います。80の施設を運営している訳なので、このようなプロの集団に任せるのも1つの方法ではないかと思います。つきまして、このような方法も検討いただいて、その結果を報告していただければと思います。

(禰宜田市長)

碧南市としては、新しい病院長になって先程に説明もありましたように大分な改善をされていると思います。その改善で現在の医師数でやれるのであれば、そのまま継続するのも良いと思っております。あまり改善ができないのであれば、抜本的に指定管理を含めて、皆さんで検討していく方向に行かざるを得ないと思っております。従いまして、ここ2、3年は様子を見たいと思っております。西尾市民病院が今後でどうなるのか。藤田保健衛生大学病院が来年4月に開院し、その後の状況を含めて様子を見てみたいと思っております。当然、先程、言われましたとおり、20億円の負担を碧南市がそのまま続けることは不可能に近いと思いますので、抜本的な改革をしなければならないと思っております。もしかすると医師数が改善し、病院がやれる状態であれば、このまま継続する方向が良いとも思っております。

(委員④)

ご参考までにですが、碧南市民病院が開設許可申請のときから在職しておりました、当時の市長と一緒に、国の機関や各種理事会などとも話し合いをし、その設立の経過なんかも医師会の方々もよく知っておられて、医師会との了解事項もありますので、そのあたりも考慮いただきたい。確かに指定管理のことも提案の1つと思いますが、碧南市民病院の開設当時は、公立病院の時代は終わったと言われ、徳州会病院や安城更生病院のような厚生連病院に依頼をするのはどうかと提案がありました。医師会とも相談し、徳州会病院や厚生連病院への依頼という考えでは了解できないというお話があり、碧南市民病院が設立された経緯がありますのでご参考までにご報告いたします。

(委員⑤)

お聞きしようと思ったことは、先程に市長からの返事のなかにはありましたので、理解させていただきました。もう1つ、訪問看護ステーションのことで教えていただきたい。深夜に活動をされていると思って質問させていただきます。例えば、深夜に活動するという事は、これだけ必要な方がおられるから行かれると思われま

すが、具体的な深夜に活動が必要なケースをご紹介いただければと思います。

(中崎訪問看護ステーション管理者)

深夜の訪問件数は増えているのですが、現在は年間で55名の方が亡くなっております。状態が不安定な方が大体、訪問看護を利用されている状況です。例えば、がんの末期で痛みが強いからとか、呼吸が苦しいからとか、ご家族だけで対応ができないので看護師に来てほしいことで呼ばれることが多いです。

(加藤丈博会長)

それではお時間もまいりましたので、これをもちまして本日の会議を終了させていただきます。

なお、次回開催は、令和2年2月3日の月曜日を予定しておりますので、よろしくお願ひ致します。

本日は長時間にわたりまして、ご協議いただきましてありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第2回碧南市民病院運営審議会を終了いたします。

(全ての予定を終了)